



NPO 法人  
**新 エネルギーを  
すすめる宝塚の会**

No. 25  
2017年12月22日発行  
理事長：中川慶子  
〒665-0875  
宝塚市中筋山手 3-2-10  
(TEL/FAX0797-88-1381)  
<http://rept.or.jp>

宝塚エネルギーをみんなで考える懇談会

**講演**：しがエネルギービジョンの取組

**講師**：中嶋 洋一さん（滋賀県エネルギー政策課）

**ワークショップ**：宝塚エネルギーをみんなで考える

2018年1月21日（日）14：00～16：30

宝塚市立男女共同参画センター 学習交流室 1A B

（阪急・JR宝塚駅直結 ソリオ 2-4 階）

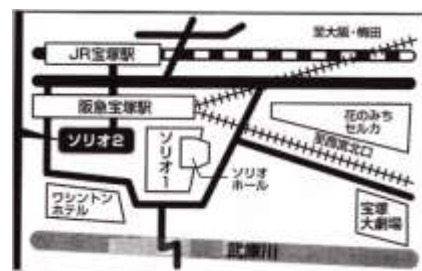
参加費：無料

お問い合わせ：宝塚市地域エネルギー課

TEL：0797-77-2361 FAX：0797-77-1159

共催：宝塚市

NPO 法人新エネルギーをすすめる宝塚の会



地球温暖化や原発の放射能汚染を防ぐため、地域の活性化のため、また少子化や過疎化の防止策として、現在各自治体は再生可能エネルギーによるまちづくりに必死です。

琵琶湖の水を飲んでいる私たちにとって滋賀県のエネルギー政策は他人ごとではありません。

今回は宝塚市との共催で、滋賀県エネルギー政策課で「しがエネルギービジョン」の策定（2016年3月）に当たられた中嶋洋一さんからビジョンの具体的な内容についてお話をお聞きしましょう。

「宝塚エネルギー2050ビジョン」を絵に描いた餅にしないために、そして宝塚市を持続可能なまちにするために、私たち市民や行政が滋賀県から何を学べるか、私たちに何ができるかを考え、意見交換し、実践をさらに前に進める機会といたしましょう。

多数の皆様のご参加をお待ちしています！市外の方も大歓迎！

” 7 G 6 r K ‡ † Ü î â É † Ñ ” Ò q f & ½ 29 † w 29 8 S K r K S >

このたび、尼崎信用金庫が展開する環境保全活動の取組の一環、「あましんグリーンプレミアム」において、宝塚すみれ発電の事業が最優秀賞を受賞しましたのでご報告します。

昨年もお声がけいただき応募していたのですが、最終選考手前で落選。今年もまたお誘いいた



いたものの、最初は乗り気ではありませんでした。しかし、私たちのやってきたことが金融機関に認められたならば、新しい世界が拓けるかもと思い直し、しっかりと書き込んだもので応募しました。それが最終選考に残っていると聞かされたときには、すでに出したこと自体を忘れてしまっていました。全体で 140 を越す応募の中で 8 件に絞られた最終選考です。選考会は実に厳粛に進められ、完全な非公開でした。

8 分間という限られたプレゼン時間の中で、これまでのことをすべて盛り込み、酸欠状態になりながら説明しました。私たちがどうして再エネでまちづくりを目指すようになったのか、そこからどういった展開で今に至ったか、これから何を目指していくのか、など。質疑応答の時には半ばやけになって、言いたいことはすべて言おうと開き直り、ソーラーシェアリングなどの未来あるものにこそ金融機関は投資すべきです！と話しました。それが、予想してもいなかった大きな賞につながり、驚くと共に今まで支えてくださった多くの方々のお顔が目に浮かび、嬉しさも倍増です。

市民発電所なんて出来るのか？から、やってみよう！と踏み出した宝塚すみれ発電所 1 号基の建設。私たちにも電気は作れた！とみんなで喜び、2 号建設に意欲を燃やしました。3 号は宝塚市と協力して出来た市民発電所モデル事業。4 号では念願の、農業を守るためのソーラーシェアリング。5 号は中古パネルを使った自家消費型で、節電＋電気代削減。2 号の追加分として作った 6 号には共感寄付という新しい形の資金が入っています。農業など一次産業を取り巻く状況は厳しく、なんとか生産者や地域を守りたい、そのためのツールに再エネを選んでいる。これらが今回、未来に続くエコな事業であると認められたのです。2013 年に会社を立ち上げ、少しずつですが前に進んできたつもりですが、やはり大変なことは数え切れないくらいありましたし、今でも大変さに変わりはありません。

おかげさまでいろんなところからお呼びがかかるようになり、様々な方たちに宝塚すみれ発電の事業を説明する機会が増えてきました。そして各地の課題もよりいっそうはっきりとわかるようにもなりました。私たちはどんな世の中を後世に残したいのか、今までに積み上げた私たちのツケ、環境汚染、地球温暖化、数え切れない負の遺産をどうするのか。私たちが立ち止まることなく、少しでも解決しながら、それがたとえ「ハチドリの一滴」であったとしても環境改善に向けて努力を続けなければいけません。「もっと頑張れよ！」と背中を押された。今回の受賞はそういったエールではないかと思っています。ここまで私たちの活動を支えてくださったみなさまには感謝の言葉しかありません。このままではいやだ、なんとかしたい、協力したい、と言ってくくださった方々がいて宝塚すみれ発電の事業は成り立っています。この小さな動きを止めることのないよう、今後ともさらなる応援をどうぞよろしくお願いいたします。

(株)宝塚すみれ発電 代表取締役 井上保子

開催日：2017.9.20

丹波地方は古くから兵庫県の有機農業生産地です。家族経営農家の多い地域で少数の牛を家族のように飼う農家もたくさんありました。酪農家は現在 37 軒までに減少、衰退の一途に。30 年以上前から生産者と消費者で守り続けてきたノンホモ低温殺菌牛乳も立て直しが必要な環境にあります。牛乳を守り有機農業も支える、10 年先も 20 年先も丹波の地が兵庫県の元気な食と農そしてエネルギーの生産地であってほしい。そんな願いを込めて応募した事業が、ひょうご農商工連携ファンド助成事業に採択されました。再生可能エネルギーの普及・酪農環境の改善・有機農業の活性化・地域経済の効果など可能性は多種多様です。主催のすみれ発電と丹波乳業は中古ソーラーパネル設置による経費削減でも協力関係にあります。今回は助成金のキックオフの機会でもあり、内容の濃い学習会になりました。

基調講演としては北海道から帯広畜産大の梅津先生にお話しいただきました。バイオマスの研究は 1950 年代の戦後のエネルギー不足から、石油危機・環境問題・再生可能エネルギー導入 (FIT) などの時代とともにあったローテク産業として社会基盤の一役を担ってきたと考えられます。今回の原材料は家畜ふん尿によるメタンガス発酵、有機農作物の液肥となる消化液と牛舎の再生敷料に、そしてもちろん電気と熱も得られます。バイオガスプラントは嫌気発酵（密閉庫内による微生物発酵）なので腸内発酵（おなら）に近いとのこと。600~700 キロの牛からのふん尿は一日約 60 キロ、バイオガス 2.2 m<sup>3</sup>を生産。牛 3 頭で 1 軒分の電気を生産します。「牛は宇宙そのもの」ミルクを出し、建物の素材や農業肥料となり、エネルギーにもなり捨てるところがない、スローな暮らしに必要なものがすべて揃っている、と話していたインドの活動家の言葉とつながります。プラントで作った消化液と再生敷料の臭いを嗅いでみました、臭いはほとんどありません。我が家に牛がいてもいい？ふんと思ったり……猫のようには飼えないのだけれども(=^・^=)。大学では、今後に向けて各種残渣、厨芥、下水汚泥、刈草などを含めたメタンガス発酵効率などのデータ蓄積もされています。市場参入の育成期にあるバイオマスプラント、道内で約 100 基近くが建設されています。FIT の買取り価格もまだまだ追い風、順調に増えそうな状況にあるそうです。ソーラー発電とは違い、バイオマスプラントは入口→稼働中→出口まで全てに人が関わることの多い事業です。だからこそマンパワーは不可欠、また多くの付加価値と可能性も秘めています。梅津先生はつながることで、地域の農業・福祉・エネルギーまでの連携にも期待が持てるとお話を締めくくられました。

バイオマスリサーチの竹内さんからは、サポートする側からの情報やアドバイスを事例に沿っていくつかお話いただきました。導入についてのアンケートから 1、悪臭対策、2、消化液利用、3、ふん尿処理作業の軽減の順位になったそうです。悪臭がどれだけ酪農家と近隣を悩ませているのかがうかがえます。また酪農作業、多くの時間がふん尿処理であることも課題です。導入を考えている酪農家たち、発電への期待はあまりなく発電収入はとても明るい材料に。また個別型の生産者で 10 年間にわたる牧草地へのふん尿撒きと消化液撒きを比較した写真、違いは一目瞭然。何よりも「牧草を守りたい、牛の健康を守りたい、牛乳を良くしたい」生産者の想いが成果となった牧草地の風景はすばらしい。他にもバイオマス事業の概要、導入、ランニングコスト、発電量、事例、経済効果など専門分野としてのお話もありました。規模をはじめ、さまざまに北海道とは違う目線での提案ときめ細かな対応が丹波には必要です。ハブ機能を担当いただけるバイオマスリサーチさん、頼りになるパートナーとして期待したいと思います。（大森美子）

## ソーラーシェアリングサツマイモ収穫祭

10月21日（土）西谷地区でソーラーシェアリングを利用したサツマイモの収穫祭を行いました。市民農園での作業には初めての参加で、秋の晴天を期待したのですが、当日は無情にも冷たい雨でした。しかし甲子園大学の学生さんを主力にした25人の芋ほり隊は、長靴はおろかズボンまで泥まみれになりながら1時間余りで大量の芋を掘り上げました。

この後、収穫作業の感謝と親睦のため、近くの宝塚市立自然の家に移動してバーベキューでお腹を満たすことも出来ました。炭火を熾すのに手間取りましたが、歯ごたえのある親鳥の肉など、普段は口にすることが少ない食材も食育としてテーブルに並びました。そういえば、ほとんどの学生は「玉ひも」を見たことが無いというのも驚きでした。

3種類のサツマイモ（パープルスイート、隼人、クイックスイート）は、2週間余りの追熟を経て甲子園大学栄養学部の学生により干し芋に加工されました。糖度測定などを経て、干し芋を素材としてパイやタルトなどさまざまなおいしい食べ物に変身。学内では学生さんたちが各自試作品を作ってプレゼンをするレシピ開発評価会が開かれたということです。

（馬場滋夫）



## 「ソーラーシェアリングをみんなで考える in 西谷」に参加して

10月24日（火曜日）午後7時から宝塚の西谷にある宝塚市立自然休養村センターで開催された「ソーラーシェアリングをみんなで考える in 西谷」に参加しました。私が「地域分散型エネルギー」に関心を持っていた為か、たまたま『広報たからづか』で見つけた「ソーラーシェアリング」という単語が目についたのと、西谷は市民農園を借りていて親しみを感じるところなので、妻と一緒に気楽に興味本位で参加しました。

内容は意外？にも情報量が豊富でテーマも多岐に渡り大変有意義でした。

農林水産省の方にソーラーシェアリングの活動が生まれた背景や意義をかつまんで解りやすく説明頂いたり、実際に西谷でソーラーシェアリングを進めておられる方からの具体的な事例による説明があったり、また、グループ討議では西谷の地元の方、ソーラーシェアリングを推進されている方と一緒にグループで、双方と意見交換もできたりと盛りだくさんでした。

特にワークショップでのグループ討議で、地元の方が後継者のいない農地を簡単には手放しにくく、土地活用になかなか積極的に取り組めない心情と、宝塚すみれ発電の井上さんのこのままではシリ貧になる西谷に対する危機意識は特に印象に残りました。

後日談ですが、このセミナーで知り合えた宝塚すみれ発電の井上さんとは色々お話しさせて頂き、これからの宝塚、更には日本のエネルギーを再生可能な地産地消型エネルギーに転換し宝塚をさらに元気に住みやすくする活動の仲間に入れて頂くきっかけになりました！

（橋本成隆）



## 総合防災訓練 ～山本山手台コミュニティ～ 12/9（土）山手台小学校にて

宝塚すみれ発電所第3号設置のご縁でお付き合いが始まった“山本山手台コミュニティ”より、昨年に引き続き防災訓練への参加要請がありました。すみれ発電所第3号にも非常用電源がついています。エネルギーの地産地消だけでなく、防災にも役立つ再エネとして広く認知されることを願って、スタッフ4名が、お話・再エネ防災グッズ展示・ソーラークッカー・ロケットストーブの実演などで地域の防災意識を高めるお手伝いをしました。

体育館は土足厳禁。まずは、新聞紙とガムテープですっぽり靴を覆うカバー作り。面白いアイデアです。舞台では災害時について、ライフラインのストップや孤立化、地域での助け合いの必要性についてなどお話されました。防災クイズや、子どもたちにはクリスマスプレゼントもくばられました。すみれ発電のテーブルでは携帯充電ができるバッテリー・ソーラーラントランやエアクッションの展示と説明を。すみれ発電井上社長は、地域を見守る企業として再エネが防災に果たす役割について話をしました。他のブースでは、さまざまな非常用グッズの展示、新聞紙で作る防災スリッパのコーナーなどもありました。

屋外には『かるぴか君』を設置しましたが、あいにくの曇り空でお水が少しぬるむ程度。でも子ども達は「何これ？」「前に見たことある」と、周りに集まってくれました。威力を発揮したのはロケットストーブ。すみれ発電から元祖モデルと手作りの2台を持参しましたが、昨年の防災訓練時に見て「これはいい！」と思われたコミュニティ住民が、改良を加えて2台自作しておられ、ソーラーシェアリングさつまいもを蒸したり、玉子を100個茹でたりと4台が大活躍。α米とカレーを温めるお湯がカセットコンロでは間に合わないとのことで、炊き出し班にお湯の提供もしました。私たちもカレーと茹で玉子をおいしくいただきました。

災害はもちろん起こってほしくはありませんが、情報を得て、各自が備え、地域の日常の交流が大切だと皆さん再確認されたことと思います。（田中章子）

## たからづか市民環境フォーラム

12/9（土）私立東公民館

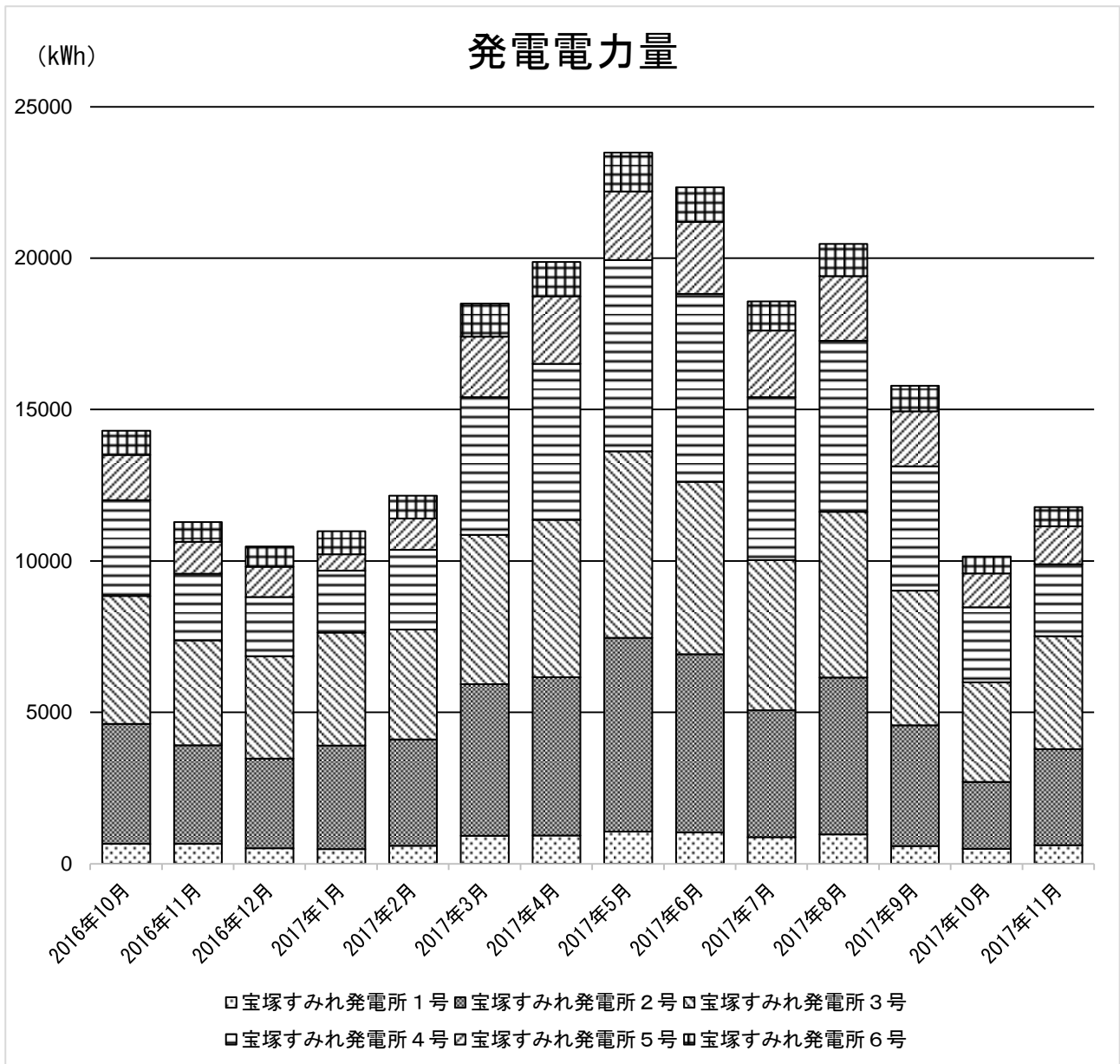
同日、東公民館では「たからづか市民環境フォーラム2017」が開かれたので、REPTメンバーは手分けして参加。今年度から「環境都市宝塚推進市民会議」に加入しているため、フォーラムに先立って1週間行われたパネル展示にも参加しました。

環境保護団体の多さ、豊かさにくらべ、環境エネルギー団体の少なさに驚くとともに、もっと仲間を増やしていかなければと責任を痛感しました。

これは市民、企業、生協、小中学校、市役所環境部が一体となって行う幅広いイベントです。フォーラムでは基調講演、市民団体の活動報告、小学生グループの研究発表、環境ポスター表彰式、環境部長を囲んだ子ども環境会議など多彩な内容が140人の参加者の前で繰り広げられました。

このような日常的活動の発表の場は、環境活動に活気を生み、宝塚市の環境の現状理解を助けてくれます。私たちは小学生への温暖化防止教育の出前授業を続けるとともに、このようなイベントで再生可能エネルギー社会の重要性を訴え続けていきたいと思っています。（なかがわ）





★・★・★・★・★・★・★ お知らせ ★・★・★・★・★・★・★

- 宝塚エネルギーをみんなで考える懇談会（表記）  
講演「しがエネルギービジョンの取組」、ワークショップ「宝塚エネルギーをみんなで考える」  
1/21（日）14：00～16：30 宝塚市立男女共同参画センター
- 第 46 回公害環境デー 公害・原発をなくし。地球環境を守る。環境の保全・再生を目指す第  
46 回府民集会「頻発する異常気象と地球温暖化」  
1/27（土）分科会 10：00～12：00 全体会 13：00～16：30  
エルおおさか南館ホール他 資料代 500 円（学生無料）  
主催：第 46 回公害環境デー実行委員会（06-6949-8120）
- 行動変容の促進を通じた温暖化防止に向けて～COP23 の報告とパリ協定の実現のために～  
2 月 10 日（土）13：30～16：30 ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）  
主催：近畿地方環境事務所、認定 NPO 法人地球環境市民会議（CASA） 参加費：無料

